

<b>Title</b>	今必要とされる人物像：オクタヴィア・ヒルと上杉鷹山
<b>Author(s)</b>	木村, 美里
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.19-3 : 15-16
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2330">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2330</a>
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

# 今必要とされる人物像 ーオクタヴィア・ヒルと上杉鷹山ー

木村 美里

## はじめに

筆者による博士論文の目的は次の二点であった。第一の目的は、イギリスの女性社会改良家オクタヴィア・ヒル（1838-1912）の思想と彼女が創設に係わった環境保護団体ナショナル・トラストの実践を検証することで、彼女の精神的基盤である「永続する精神」を考察することである。第二の目的は、第一の目的を研究することで日本の環境保護における指針をも模索することである。本稿では、今後の研究の展望として第二の目的に着目し、上杉鷹山（1751-1822）の思想を挙げて、ヒルの思想や実践との比較を行なう。両者に直接の接点はないが、「理想実現」を主題として捉えた際に思想ないし行動面での共通点が多く挙げられる。それゆえに、環境保護や財政危機が問題視される今日において、必要とされる人物像としてヒルと鷹山を考察することは意義のあることといえよう。

## 1. 「癒しの贈り物」ーオクタヴィア・ヒルー

ヒルは19世紀イギリスで活躍した女性社会改良家である。彼女は貧困に苦しむ人々の住宅改善に取り組み、これに関連して空間を保護するオープン・スペース運動を展開し、トラストの創設者の一人として活動した。彼女は自然豊かな環境で育ち、信仰および道徳心を重んじ、内面的に豊かな人間性を培った。彼女の聡明さは、14歳の時にすでに自分よりも目上の女性たちを指揮する立場にいたことから認識できる（Bell 1942:18）。彼女は自然豊かな空間を「癒しの贈り物（healing gift）」として捉え、自然の美しさが人間の内的側面に影響を与えると考えた。また、彼女のトラストに関する論文では、歴史的遺産として、建物や記念碑などを後世へ残す団体の意義と必要性につ

いても説いている（Hill 1905:939、940）。ヒルが創設にかかわったトラストは着実な成長を続け、今日では350万人を超える人々が会員となっている（英国ナショナル・トラストHP）。

## 2. 「民の父母」ー上杉鷹山ー

鷹山は米沢藩第9代目藩主である（戦国大名上杉謙信を藩祖とする上杉家としては第10代目当主）。高鍋藩秋月家の出身で、10歳の時に米沢藩へ世子として養子に入った。鷹山は17歳で家督を継ぎ、米沢藩主としての道を歩み始めることとなった。当時の米沢藩は格式・伝統を重んじることと区作などゆえの財政難に苦しみ、民も疲弊しきっていた。鷹山は藩主となる決意として二つの誓詞を奉納し、一方の誓詞では自らを律し、他方の誓詞では藩政改革を目指す精神を表明している（横山2002:37、38）。「受けつぎて 国のつかさの 身となれば 忘るまじきは 民の父母」と心得て、「君徳」を実践した。また、家督を譲り隠居する際に次の藩主へあてた「伝国の辞」は藩主が自らの立場を律し、国や民を私物化すべきでないといっている。

## 3. ヒルと鷹山の共通点

ここでは両者の共通点に触れたい。先述のようにこの二人には直接の接点がないものの、多くの類似点がみられる。頁に制限があるため、今回はその中の三つを簡潔に紹介したい。

第一に、二人の思想形成の上で、道を示す優れた人物が周囲に常にいたことである。ヒルに影響を与えた主な人物は祖父サウスウッド・スミス、母親キャロライン・ヒル、先の研究ノート（19-1、19-2号）で挙げたキリスト教社会主義者の代表的存在である神学者F.D.モーリスと芸術評論家ジョン・ラスキンである。鷹山に関係する主な

人物は細井平洲（儒学者）、三好善太夫重道（高鍋藩家老）、藁科松柏（米沢藩侍医）などが挙げられる。特に細井平洲は環境論者ではないが、人間が成長する上で環境が重要であることをも認識していた人物である（築波 n.d.:14、15）。また、鷹山が平洲の教えを生涯にわたり実践したことから、平洲の思想を高く評価することができよう。

第二に、自らが手本となり、積極的に行動したことである。両者はそれまでの伝統を軽視するのではなく、当時の的確な状況判断から変革する勇氣を持っていた。ヒルは率先して住宅の修理や掃除に取り組み、清潔な環境づくりを貧しい労働者階級の人々に指導した（Bell 1942:55）。鷹山も田地開墾の儀式である「藉田の例」を執り行ない、自ら田に鋤を打った（横山2002:71）。また、日照りが続いた際には、自らが山へ登り降雨の祈願を行なっている（渡部（史）、横山編1989:76）。

第三に、両者の共通点において最重要事項として挙げられる信仰心に基づく精神的基盤である。ヒルは内的自然の思想と外的自然を保護する実践の二側面をもつ「永続する精神」が基軸となり、彼女の活動において重要な位置を占めているといえる。鷹山は絶望的な藩財政を3代で回復させる基盤を作り、その精神は先述した誓詞や彼の有名な歌「成せばなる 成さねばならぬ 何事も ならぬは人の 成さぬなりけり」に表れている。

## おわりに

ヒルは住宅改良、オープン・スペース運動やトラスト創設による環境保護の分野において高く評価される人物である。また今日、鷹山は改革の指導者における理想的な人物として挙げられている。両者は教育を重視し、人材の育成に取り組む姿勢が見られ、また、自らが率先して行動することで他者の意識改革をも実現させる実行力を保持していた。

現代日本に蔓延する深刻な社会問題は、学力至上主義に固執し、人格教育が軽視されたことに原

因の一端があるといえよう。完璧な人間は存在しないが、よい人間になろうとする志は大切であると考え。今後さらに日本の実学（折衷）派思想の再評価（辻本1988参照）に焦点をあてるとともに、ヒルと比較研究することで、これからの日本の環境保護運動を外的小および内的側面から支えることのできる精神的基盤の探求に努めたい。

## 参考文献

Hill, Octavia. "Natural Beauty as a National Asset" in the Nineteenth Century, 58, 1905.

Bell, E. Moberly. Octavia Hill: A Biography. London: Constable, 1942. 『英国住宅物語—ナチュラルトラストの創設者オクタヴィア・ヒル伝』（中島明子監修・解説、平弘明・松本茂訳、日本経済評論社、2001年）。

築波崧『（郷土の先哲）細井平洲先生の環境論』出版社・出版年不明。

横山昭男編『上杉鷹山のすべて』（新人物往来社、1989年）。——著『上杉鷹山』（吉川弘文館、2002年）。

辻本雅史「十八世紀後半期儒学の再検討—折衷学・正学朱子学をめぐる—」『思想』（岩波書店、No.776、1988年）。英国ナショナル・トラスト：<http://www.nationaltrust.org.uk/main/>

（きむら・みさと 聖学院大学総合研究所特任研究員）